

2008年 豊川流域圏づくり推進事業

事業名:「山城」史跡を有効活用した流域圏づくり事業

三遠南信広域観光歴史文化研究会（豊橋市）

1:事業の目的

豊川流域圏の「歴史的遺産」である「戦国武将生誕地」や「中世山城」「中世城郭」は現在判っているだけでも200以上もある。しかし、ほとんどの物は地域でも知られていない事が多く、また、埋もれているというのが現状である。この埋もれた「歴史的資産」である「生誕地」「城郭」に焦点をあて、地域のみならず広く流域圏内、圏外まで情報発信し、豊川流域圏内の交流のみならず圏外との交流を促進し、新たな観光と流域圏づくりを目指すのが今回の事業の目的である。

2:事業の概要

(1) 現況調査(フィールドワーク)、先進地事例調査

豊川流域圏内や近隣周辺、そして山城活用先進地などの調査を実施。例として豊川流域圏と公共交通機関で繋がれている、浜松市水窪の「高根城」や「長篠城周辺」を飯田線利用者の観点から見たり、2008年10月に山形県大江町で開催された「第15回全国山城サミット連絡協議会大江大会」に団体として正式に参加し、全国各地の山城活用している自治体や団体と交流、情報交換をした。

(2) テーマ「戦国時代を活かした地域おこし」と題したシンポジウムの開催

豊川流域圏の現況と流域圏外の取り組みなどを紹介し、また、愛知県が進める「武将観光」との連携も視野に入れた地域おこしを目指し、その促進となることを考え開催。

(3) ウォーキングマップなどの作成

フィールドワークで訪れた場所を参考に、JR東海などが行なっている「さわやかウォーキング」のコースになるようなコースを考案。



高根城(浜松市水窪)

3:具体的な実施結果

(1) 事業実施日程

年月日	内容	備考(場所等)
20年8月23日	・打ち合わせ(高根城、長篠城調査等)	愛知大学
20年9月13日	・中世山城活用先進地調査 ・高根城、長篠城周辺の砦の現況調査	浜松市水窪、新城市
20年10月18日、19日	・第15回全国山城サミット連絡協議会大江大会 正式参加	山形県大江町
20年10月25日	・豊川市「岩略寺城」見学 ・「全国山城サミット」参加報告	豊川市御津町、長沢町
20年11月15日	・新城現地調査打ち合わせ等	愛知大学
20年11月22日	・中山砦、久間山砦現況調査 ・シンポジウムチラシ案など開催準備	新城市(旧鳳来町)
20年12月13日	・シンポジウム開催準備打ち合わせ	愛知大学

20年12月14日	・講演会「二侯城と北遠の城」参加 ・シンポジウム打ち合わせ	浜松市「天竜壬生ホール」
20年12月20日	・「海・山・野」フォーラム参加 ・シンポジウム開催準備と打ち合わせ	愛知大学
20年12月23日	・打ち合わせとポスター掲示依頼	豊橋美術博物館
21年1月10日	・シンポジウム開催準備	愛知大学
21年1月12日	・「戦国時代を活かした地域おこし」 ～地元の山城、武将にもっと光を～ を開催	豊橋市 愛知大学豊橋校舎 記念会館 小講堂
21年1月18日	・反省会(アンケートまとめなど)	愛知大学
21年1月31日	・報告書まとめ	愛知大学

＊「主な実施事業内容」

浜松市水窪町「高根城」と新城市「長篠城」と「鳶ヶ巣山砦」現況調査

(平成20年9月13日(土))

当日の流れ: 豊橋駅 8:12発の飯田線に乗車。飯田線「向市場」駅 10:36着。
(「高根城」に最寄の駅) 駅構内の「名所案内」の看板に高根城の記載が無い事を確認。



向市場駅を出て、標高420m山頂にある「高根城」まで徒歩で登城。ゆっくり1時間ほどかけて高根城に到着。(学研「戦国の山城」では駅から徒歩30分。麓の駐車場から20分と書かれている) 山頂の高根城からの展望は素晴らしく、眼下の水窪の町がまさに手に取るように解る景色である。現在の高根城は発掘調査を経て、史跡公園として整備され、門、柵、土塀、物見櫓等の建物が木造で再現され、また、堀切などが発掘調査で確認された状態で整備され、中世山城がどういったものか、非常に解りやすい。

昼食後、水窪駅 13:50発の電車に乗り、中部天竜駅へ。ここには「佐久間レールパーク」という「鉄道博物館」があり、今年廃止予定の「0系」新幹線など展示されている。切符を持っていると入場無料なので、ここを見学。

中部天竜駅 15:13発の電車に乗り、長篠城駅へ。長篠城駅から車に乗って、鳶ヶ巣山砦など長篠の戦で武田軍が長篠城を落とす為に囲んでいた砦を巡る。



車で長篠城も先に訪ね、鳶ヶ巣山砦などの位置などを確認。

帰りは新城駅まで車で行き、17:18発の電車に乗り豊橋へ。

砦の現場は、看板などはあるが、現地に行くまでの誘導看板がないなど正に現地の人でないと判らない状態となっている。ウォーキングコースに組み込むには、整備が必要だと感じた。

第15回全国山城サミット 大江大会参加 (平成20年10月18, 19日 山形県 大江町にて開催)

行程、日程:

17日 夜行「ムーンライトながら」ー鈍行ー
山形(寒河江泊)

18日 午前 左沢楯山城見学

午後 全国山城サミット総会&記念講演

夜 サミット参加加盟自治体&
参加団体 懇親会出席

19日 午前 テーマ「中世の山城とその景観を
まちづくりにどう活かし伝えるか」でパネラーと会
場の間で質疑応答。

今回大江町に実際に来ていたのは、参加自治体13自治体、参加団体は10団体。新規加盟自治体は6自治体、加盟城郭は7城郭となり、現在サミット加盟自治体数は75自治体、加盟城郭は109城郭となった。又、現在、大江町と連携し「全国山城サミット 紹介ブログ」を運営中である。



全国山城サミット 紹介ブログ <http://blogs.yahoo.co.jp/zenkokuyamashiro>

- * サミットに参加し、加盟自治体との交流、情報交換が出来有益であった。また、サミット自体は有名ではないが、加盟自治体である「彦根市」など城で有名な自治体との横の繋がりを構築できるチャンスであり、このサミットに参加する事は豊川流域圏の中世山城を有効活用する上で、現在「点」でしかない中世山城を「線」、「面」にする良い機会と感じた。

豊川市御津町、音羽町においてサミット参加報告と「岩略寺城」現況調査 (平成20年10月25日(土))

当日の流れ: 豊川市御津町の生涯学習会館に集合し、「全国山城サミット」報告。

お昼過ぎに御津町を離れ、豊川市長沢町にある「岩略寺城」へメンバーの車で移動。



「岩略寺城」は東名音羽蒲郡インターを眼下に眺める山上にあり、真下に音羽蒲郡道路のトンネルがある。旧東海道沿いに写真のような案内があり、江戸時代の城の地図が載っており、珍しい看板といえる。



城址のある山頂までは旧東海道から距離1.2kmの舗装された林道となっており、看板前にはかなり広い駐車スペースがあり、10数台は車が止められる、バスでも方向転換出来るほどである。駐車場には写真のような看板があり、入り口案内もしっかりしている。しかし、看板の内容が「縄張図」しかなく、城の歴史などの基本データが無く、この辺が初心者には解り難い、易しくないといえる。(地図もある縄張り図があるのは評価ポイントではあるのだが)

本郭には写真のような碑と簡単な歴史の書かれた看板があるが、少し、物足りない内容であった。またこの城址の特徴として規模の大きな「井戸」が5ヶ所あり、いずれも柵が必要なほど深い物である。また、山城としてみても、東三河地方の最大規模の広さを誇っていて、遺構もしっかり残っており、メンバーも縄張図を片手に広さや段差、またその意味など理解できたと感想を持った。



帰りには東海道を車で戻り、改めて「大橋屋」「御油の松並木」など周辺の名所などとの位置関係を把握した。

会のメンバーの「岩略寺城」の感想は「見学」「徒歩」「見ごたえ」など十分にあると一致した。史跡整備等もされており、また、東海道からも近く、道も迷わず一本道で、しかも舗装されて歩きやすい。東海道は名鉄などが「街道ウォーク」など観光的にもパンフレットなど完備されているが、そういったマップには岩略寺城は載っておらず、せっかくの看板等がもったいないと意見が一致した。名鉄のウォーキングイベントに提案など将来的にやっていきたい。

新城市 旧鳳来町「中山砦」「久間山砦」現況調査

(平成20年11月22日(土))

当日の流れ: 10:00に新城市鳳来支所に集合。10:30頃出発。最初に「中山砦」に向かう。中山砦は実は現在建設中の「第二東名」により史跡としては消滅する予定になっており、現場にはガイドの梶村昌義氏が設置した看板しかない。(猟友会のベストを着ているのが梶村氏)ここからの長篠城の眺望は素晴らしく、ここに砦を置いた戦略的な意味合いが良く判る。

久間山砦も梶村氏がお一人で看板など設置している。平成20年5月、梶村氏は一人で石碑を久間山砦に設置し、記念式典には新城市長も久間山砦に訪れたとの事。中山砦は私有地に車など止めるとか、工場敷地内を通らなければならないが、久間山砦は林道の先に駐車スペースもあり、見学などは可能の状態である。



毎年五月にある「のぼり祭り」ではこの久間山砦にも大きなのぼりが立つが、これも梶村氏お一人で毎年立てているとの事。石碑は立派な物で、これを一人でこんな尾根上の場所まで持ってくるのは並大抵のことではなく、氏の情熱の凄さに脱帽である。梶村氏に感謝をし、久間山砦を離れて、「設楽原歴史資料館」へ移動。資料館の展示物を見てから会議室を借りて、シンポジウム開催について話し合う。

シンポジウム「戦国時代を活かした地域おこし」開催

(平成21年1月12日(月))

会場 愛知大学 豊橋校舎 記念会館 小講堂(豊橋市町畑町1-1)

主催 三遠南信広域観光歴史文化研究会、愛知県

後援 愛知大学三遠南信地域連携センター、三遠南信地域交流ネットワーク会議
第15回全国山城サミット連絡協議会大江大会事務局山形県大江町



プログラム

【開会挨拶】 13:00～13:05

主催者 愛知県地域振興部 水資源監

相羽 幸信

【趣旨説明】 13:05～13:10

主催者 三遠南信広域観光歴史文化研究会

代表 中村秀夫

【報告テーマ「戦国武将」】

13:10～14:10 (各人20分)

報告1「愛知県の武将観光について」

(社)愛知県観光協会 企画事業部 部長

川出浩之

報告2「民間主導の戦国武将、雑賀孫市で

まちおこし」

和歌山県「孫市の会」会長

森下幸生

報告3「戦国ブームの盛り上がりと実例」

新感覚戦国時代プロジェクト「戦国魂」

プロデューサー 鈴木智博

【休憩】 14:10～14:20 (10分)

【報告テーマ「中世城郭」】

14:20～15:20 (各人20分)

報告4「高根城の保存整備の流れと縄張について」織豊期城郭研究会 加藤理文

報告5「浜松市の中世城郭の活用と効果」

静岡県浜松市文化財担当課長 辰巳 均

報告6「豊川流域圏内の山城とその活用案」

三遠南信広域観光歴史文化研究会 中村秀夫

【休憩】 15:20～15:30 (10分)

第二部 【トークセッション】 15:30～16:45



*当日は会場に100名ほどの参加者を迎えてシンポジウムがスタート。第一部は「戦国武将」「中世城郭」と分かれて、それぞれの活動などを報告。戦国武将に関する三人の報告者の皆さんが自作、自前の甲冑を着ての報告に会場も盛り上がり、特に「孫市の会」の会長の手作り火縄銃の実演など、大いに盛り上がった。また実際に「高根城」整備委員会に関わった加藤氏や行政として活動している浜松の取り組み、そして東三河の現状など中世城郭の報告も盛り上がり、そのまま第二部へ。



第二部では報告者が壇上に並び、地域おこしの難しさ、実際の問題点、また、他の各地の取り組みなどについてのトークセッションを行なった。中でも滋賀県で行なわれている「のろし駅伝」の取り組みや浜松市ののろしリレーの予定など、これから豊川流域圏でも取り組めばいいのではないかと、という空気が会場で盛り上がった。



公共施設を直接訪ね、ポスター掲示を依頼した。）

また、会場入り口では城郭、戦国時代関連の書籍販売、グッズ販売なども行なわれた。書籍やグッズに関しては豊川流域圏地域に必要な要素ではないかと思う。報告者の一人も指摘していたが、「お土産」が少ないというのも来訪者にとってはいい印象を与えないと改めて実感した。

（シンポジウムではポスター80枚、チラシ1000枚作成し、豊川流域圏の各自治体へチラシを送付し、告知協力を要請した。

桜ヶ丘ミュージアム、蒲郡市博物館、など流域圏内の

*備考(参考資料等)

東三河の城郭の数

	山城	平山城	丘陵	平城	屋敷・陣所	合計
豊根村	2					2
設楽町	8	13		1	8	30
東栄町	3	3			3	9
新城市	18	18	5	12	51	104
豊川市	1	9	3	22	10	45
小坂井町				3	3	6
蒲郡市	1	4	1	3	3	12
豊橋市	10	5	6	9	11	41
田原市	1		2	6	9	18
合計	44	52	17	56	98	267

愛知県教育委員会編「愛知県 中世城郭調査報告Ⅲ(東三河地区)」より

中世城郭観光活用度ランキング

	豊川流域圏の山城 (三遠地域含む)	流域圏以外の山城
A		荒砥城(長野県千曲市)
B	田峯城(設楽町) 高根城(浜松市水窪)	足助城(豊田市) 清水山城、西山城を中心とする城郭群(滋賀県高島市)
C	亀山城を中心とする作手地区城郭群、岩路寺城(豊川市)	
D	五葉城(新城市・豊橋市)など看板のみ(ほとんどの山城はここに入る)	
E	*草間城(豊橋市)など平野部の館系の城館	

*シンポジウム アンケート結果 (回収総数:59) (2009年1月12日(月・祝)実施)

1:今回、何でこのシンポジウムを知りましたか?(複数回答可)

	① 新聞	②チラシ・ポスター	③インターネット	④その他
回答数	11	30	7	16

2:今回の「シンポジウム」での報告等、何に興味を沸きましたか?(複数回答可)

- ①武将観光について ②戦国武将、雑賀孫市で町おこし ③戦国ブームなどについて
④豊川流域圏について ⑤浜松市の活用例など ⑥高根城について ⑦第二部 ⑧その他

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
回答数	21	19	23	26	24	28	9	4

3: 今回、あなたにとって、豊川流域圏地域の新たな発見や興味に繋がりましたか？

	① はい	② いいえ	③ その他
回答数	47	7	5

*回答者 年齢別

	30代	40代	50代	60代	70代以上	未記入
回答数	7	3	7	24	13	5

*性別

	男	女	未記入
回答数	46	7	6

*住んでいるところ 愛知県内

	豊橋	豊川	新城	田原	蒲郡	小坂井	東栄	知立	日進	名古屋
回答数	21	4	6	1	1	2	2	1	1	2

愛知県外(+未記入)

	浜松	静岡	掛川	滋賀 米原	滋賀 守山	未記入
回答数	9	1	1	1	1	5

*アンケート結果(参加者のご意見等)から見てきた反省点

- 1: PR不足による参加者の少なさ・・・講師、報告者のレベルを考えたらもっと人が来たのではないかな？
- 2: 開催時期の点・・・やはり年末年始という点、そして告知など遅れた点などが参加者の少なさにも繋がったのではないかな？
- 3: 参加者の年代・・・もう少し若い世代「30代以下」へのPRが足りなかったのではないかな？ 地元書店などにポスター掲示を依頼してもよかったのではないかな？ 県内の甲冑隊などにも告知などをすれば若い世代の人が来たのではないかな？

4: 事業の効果

昨年からの現地調査などを経て行なったシンポジウムの結果、実際の参加者は100名程度であったが、中日新聞、東愛知新聞、東日新聞が大きく取り上げ、また後日行なわれた愛知県の「武将観光」イベントの記事でも朝日新聞や東日新聞の記事では今回のシンポジウムの事が紹介され、豊川流域圏内外に埋もれていた「中世山城の数や現状」「戦国武将のブーム」、「愛知県の武将観光」などの認知になった。現在でも各新聞社のHPで記事が紹介され、インターネットでは城郭ファンのHPやブログでも記事が紹介されている。今回、報告者にもなった愛知県観光協会とも大きなパイプが出来、実際に「ウォーキングコース」やグッズなどでこれから協力し合う事を確認。また「武将観光」の関連部会への参加も打診されている。

5: 今後の課題及び展開

今回、いろいろ調べて判った事、それは豊川流域圏には歴史的にも「全国トップレベル」の「素材」が沢山あること。特に三英傑といわれる「織田信長」「豊臣秀吉」「徳川家康」という三人の武将がこの地域から天下平定まで漕ぎ着けた時代、「戦国時代」は必ず教科書にも載るほどである。また、長篠の戦などは今なお多くの人の「ロマン」を感じさせる合戦の一つであるのは様々な小説、TV、映画、漫画が合戦を取り上げているのが証拠である。しかし、この素材を活かしているかといえば、「まだまだ」というのが現状である。豊川流域圏という地域内でも設楽町の「田峯城」を知っているのはごく僅か、歴史ファンぐらいである。また、流域圏内でもこの「地元の歴史」「郷土史」の分野で「流域圏」として考える空気は少なく、こうした点も「上流、下流域の連帯感不足」に繋が

っているように思える。しかし、このテーマ「戦国時代」は現在、様々な分野で注目されており、TV番組でも日本史としてよく取り上げられているのはやはり「戦国時代」である。今、全国では「体験型」の取り組みやイベントが多くなり、以前より受身ではなく、自分から積極的に参加する歴史ファンなどが全国には増えている。この流れをどう捉えるか？愛知県の武将観光事業や諸団体などと連携し、考えていきたいと思う。

***今後の展開の案**

- 1:今回考えた「モデルウォーキングコース」を使って「ウォーキングイベント」を開催
- 2:既存の「街道ウォーキング」コースなどのチェック(看板などの利用者の視点で)
- 3:「城郭」だけでなく、「合戦場」「武将」、また「温泉」などを組み合わせたコースの考案

*飯田線を使った「モデルウォーキングコース」

(一日使って楽しむ高根城&長篠城コース)

JR東海「休日フリー切符」(一日乗り放題 大人2500円)使用の場合



＊飯田線 JR水窪駅 13:50発 → JR長篠城駅 15:03着 からの
モデルウォーキングコース(長篠城周辺)



武田勝頼本陣跡にある
物見櫓展望台

国道
257号

長篠城駅 → 長篠城址・保存館 → 大通寺

(距離) 450m 城址見学・館内見学 200m
(時間) 10分 (約30分見学) 3分 (5分見学)

→ 医王寺 → 長篠城駅

(距離) 600m 遊歩道散策 1250m 距離:約3km(遊歩道込み)
(時間) 12分 (20分程度) 25分 時間:1時間45分程

＊飯田線 JR長篠城駅 16:55発 → JR豊橋駅 17:52着

「壺井の碑」

大通寺にある泉は「壺井」と呼ばれている。
これは長篠の戦の折、武田方の馬場、山県、
内藤、土屋の武将たちが最後の水壺を
交わしたと言われている。

＊大通寺裏の高台からは「保存館」が見え、
大通寺の戦略的重要性が垣間見える。



＊今回は「城郭」にテーマを絞ってコース設定をした。
午前中に発掘調査に基づいて復元された中世山城
「高根城」を見てから午後、長篠城やその周辺史跡を
見る事により、理解度がかなり深まる事になるだろう。
また、現在「知名度」では「長篠城」が、見ごたえでは
「高根城」がある。今回の連携コースはお互いに補完
しあえる関係にある。